

国立国語研究所学術情報リポジトリ

移民資料館アワー（国立国会図書館憲政資料館所蔵）資料集

メタデータ	言語: ja 出版者: 国立国語研究所 公開日: 2024-03-29 キーワード (Ja): キーワード (En): 作成者: メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.15084/0002000255

人間文化研究機構共創先導プロジェクト共創促進研究
日本関連在外書料調査研究
ハワイにおける日系社会資料に関する
資料調査と社会調査の融合的研究

移民資料館アワー

(国立国会図書館憲政資料館所蔵)

資料集

朝日祥之 (編)

宮崎早季 (著)

2024 (令和 6) 年 3 月

はじめに

朝日祥之

1. 本プロジェクトの目的

本プロジェクトは、第2期中期目標・中期計画、ならびに第3期中期目標中期計画で推進された「日本関連在外資料の調査研究」を発展的に継承するものである。本プロジェクトで扱う近現代史資料、とりわけ20世紀の資料は、その数が膨大である上、個人や地域・民間で所蔵されている場合は、その管理・運用体制が構築されていないものも多い。しかも日本語で書かれた在外移民資料の場合、世代交代をくり返すたびに日本語を理解できる者が減少する課題もある。本プロジェクトにおいては、第3期プロジェクトにおいて整備をはじめた音声資料目録データベースをさらに充実させること、所蔵資料の概要、資料管理の現状と将来の見通し、資料を所蔵することになった経緯や地域社会・関係者との関わりに関する社会調査を行う。これにより、ハワイにおける民間レベルの「歴史実践」を把握しつつ、資料の概要を把握するための目録を作成する。

2. 本報告書について

本報告書は、本プロジェクトのうち、国立国会図書館憲政資料室に所蔵されている音声資料（日系移民関係資料）のうち、ハワイで収集された資料の一部である日本語ラジオ放送番組「移民資料館アワー」の概要（シノプシス）を資料集としてまとめたものである。なお、本資料については、国立国会図書館のリサーチナビにも掲載されている。

ハワイ移民資料館アワー

【番組の概要】

ハワイ移民資料館アワーは、ハワイ州ホノルルの KZOO ラジオ放送局で放送された日本語ラジオ放送番組である。KZOO のアナウンサーうらけいこと、ハワイ島ヒロにあるハワイ移民資料館館長大久保清が出演した。ハワイ水産カンパニーやセントラルパシフィックバンクなど、地元の日系企業をスポンサーに持った。

放送は「いろはがるた」のコーナーで始まる。「いろはがるた」に書かれている日本語のことわざを英訳したものを、KZOO サンシャインガールのシャーレン(日系四世)が読み上げ、日本語を話さない世代にも日本の価値観を伝えることを目的としたコーナーである。(シャーレンが不在の時には、このコーナーは放送されない。)

「いろはがるた」に続き、大久保自身が収集・保管している 19 世紀末から 20 世紀初頭の邦字新聞の記事を基に、ハワイ日系人社会に関する話をする。

その後、曲のコーナーとなり、日本の歌やハワイ日系二世の歌手らによる歌のレコードが流れて、20 分ほどの放送が終わる。

【大久保清について】¹

大久保清は、1905 年 11 月 27 日新潟県北蒲原郡で 10 人兄弟の 8 番目に生まれた。東京の成城第二中学を卒業後、ハワイへすでに移民していた長兄の呼寄せで、日本からアメリカへの移民が全面的に禁止される寸前の 1924 年 4 月 9 日、ハワイに上陸した。ハワイ到着後は、イオラニスクールで英語を学び、1925 年に「布哇新報」に入社。布哇中央学院で日本語教師としても働いた。1926 年に布哇新報が廃刊となると、ハワイ島コナへ渡り、ケアラケクア学園、コナ独立日本語学校などで教鞭をとりながら、「コナ反響」の記者を務めた。1932 年には、ホノルル「電報新聞」の創刊に伴い招かれ入社するも、わずか 4 か月で廃刊となった。大久保は再びハワイ島へ戻り日本語教師を続けるとともに、1936 年から「布哇報知」のヒロ支局長を務めた。同じころ、ハワイ唯一のラジオ局 KHB の日本語ラジオ放送主任も務めた。1941 年 12 月、太平洋戦争勃発に伴い逮捕されキラウエア火山の抑留所にて拘留された。しかし、12 月 29 日に釈放された。戦後 1955 年に大久保はヒロ・タイムスを発行した。1965 年にハワイ島日本人移民資料保存館を設立し、それまでの新聞記者人生の中で収集してきた邦字新聞をはじめとする日本人移民関連資料を整理・保存する環境を整備した。1989 年に勲四等旭日小綬章を受賞。2001 年にハワイ島ヒロで死去。

大久保は日本生れの一世代として、日本語教師として、新聞記者として、ハワイ社会

¹ ポール円福編 (2012) 『ハワイ日系パイオニアズ : 100 の物語』 ハワイ報知社。

の発展と、日本との交流を見つめてきた。「移民資料館アワー」では、その経験に基づき、ハワイ日系人社会のリーダーたちの話や、サトウキビプランテーションでの暮らし、日系人の宗教の話などを語っている。

【各放送の梗概について】

各放送回の梗概では、【いろはがるた】【話の内容】【曲】【サブジェクトタグ】をそれぞれ記している。

【いろはがるた】では、「」内に日本語のことわざをしるし、そのあとに簡単な英文を記している。話者の癖により聞き取りが困難なものや、音源の編集の段階で途切れてしまっているものなどは適宜脚注などで示している。

【話の内容】では、大久保とうらによってなされた会話のまとめを記している。話の内容や言葉遣いに関しては、大久保の使用した通りに記入している。人名に関しては、名字のみの言及であっても邦字新聞や「ハワイ年鑑」などにより個人が特定できた場合にはフルネームで表記している。また、放送内で言及された補足情報は本文中の()内に表記し、それ以外の他文献等からの補足情報はすべて脚注に示している。

【曲】では、放送内で流れた曲を記している。演奏者が放送内で言及された場合には、曲名に続き()内に演奏者の名前を表記している。

【サブジェクトタグ】では、各放送内でのトピックキーワードを示している。

【作成者】

2017年1月以降、人間文化研究機構ネットワーク型基幹研究プロジェクト「北米における日本関連在外資料調査研究・活用」の活動の一環として、国立歴史民俗博物館、海外移住資料館、国立国語研究所、国立国会図書館の日系移民関係資料に関わる担当者が、資料の収集等についての連携協力に向けて、定期的に会議を開催している。この一覧は、その連携協力の一つの試みとして、朝日祥之氏(国立国語研究所准教授)及び宮崎早季氏(国立国語研究所プロジェクト非常勤研究員)によって、2019年1月に作成されたものである。

第1回目（1993年9月18日放送）

【いろはがるた】

※音飛びのためなし

【話の内容】

20年近く前に、豊平走川氏(とよひらそうせん・「日布時事」の記者)から大久保へ送られて来た手紙の紹介。ママさん¹たちの影の活躍が、今日のハワイ日系社会の発展を支えた。このママさんたちは、写真花嫁としてハワイにやってきた。豊平氏によるこの日本人女性たちに関する原稿をもとに大久保が語る。

写真花嫁は、1908年(明治41年)から1924(大正13年)年7月31日まで16年間続いた呼び寄せ時代にハワイに来た。ハワイ在住の日本人男性が郷里に自分の写真を送り、仲人に世話をされた女性が自分の写真を送り返す。女性は男性との入籍の手続きを日本で済ませ、ハワイから送られた旅費で、妻としてハワイへ渡った。呼び寄せ時代には、呼び寄せ花嫁のほかに呼び寄せ少年・娘(日本に残されていた移民の子どもたち)もいた。豊平も呼び寄せ少年であり、17歳の時にハワイに渡った。乗っていた東洋汽船の紀洋丸の三等船室には、各県からの写真花嫁でいっぱいであった。彼女たちは、夕方になると、デッキの隅に肩を寄せ合って集まり、当時日本で流行っていた「ああ世は夢か幻か²」や「青葉茂れる桜井の」を歌っていた。

写真花嫁たちはハワイに上陸すると、移民局で集団結婚式を挙げ、初めて見る夫に連れられプランテーションに向かった。結婚の余韻もないうちに、日々の仕事に追われ、子育てをし、家族のために働いた。

写真結婚に使われた写真は、本人と似ても似つかないものが多かった。顔を見てもわからないので、移民局で自分の名札を付けた行李を手にとった男の人を自分の夫だと認識した。「頼母子落としてワヒネ³を呼んで、人にとられてベソをかく」(頼母子が落とせたので、やっと日本から妻を呼び寄せたが、妻を人にとられて落ち込んだ)というホレホレ節のように、結婚を嫌がった女性がほかの男性と逃げる事例も多少はあったが、ほとんどの女性が「来たからには頑張らねば！」と腹を括って踏ん張った。我慢や忍耐で生き抜いてきた写真花嫁だったが、日本での嫁入りとは違い、姑や舅がいなかったのは唯一の救いだったかもしれない。

政策結婚、生活結婚があったが、頑張ってくれた1世がいたおかげで今がある。

¹日本語由来のピジン語でお母さん・おばさんの意。

²「夜半の追憶(男三郎の歌)」のこと。美しき天然のメロディーに合わせて、死刑囚野口男三郎をイメージした詞をあてた替え歌。

³Wahine. ハワイ語で女性・妻の意。

【曲】

「青葉茂れる桜井の」(歌:東京混声合唱団・女声合唱団)

【サブジェクトタグ】

呼び寄せ移民 写真花嫁 日布時事

第2回目（1993年9月25日放送）

【いろはがるた】

「律義者の子たくさん」: A conscientious man has many children.

【話の内容】

日本の国旗、日の丸の話と明治33年(1900年)4月に開催された日本流の茶会の話をもう一度してほしいという、リスナーからの電話があった。リスナーあつての放送局であるため、今回はリクエストにこたえる。

日章旗、日の丸は日輪・太陽を模ったものである。徳川幕府の終わり頃、尊王攘夷の機運が高まる混乱の中、各藩が軍艦を作って、思い思いの旗を揚げたため、対外国との関係で色々な問題が起こった。これに心を痛めた薩摩藩主島津斉彬は、日の丸を作って幕府に献上した。安政元年7月11日より、大きな船にはこの旗が日本の国旗として使われるようになった。安政3年1月27日、正式に日の丸が国旗となることが布告された。したがって、日の丸は戦争のためではなく、日本を統一するための平和の象徴となったのである。

明治33年(1900年)4月の新聞を見ると、日本風の茶会が行われたことがわかる。ホノルルのキロハナ美術協会で開催された茶会では、参加者は日本人であるかどうかにかかわらず、全員和服であった。白人の婦人によるバイオリンとピアノの演奏のあとに、大和歌の合唱があった。ここで歌われた大和歌とは、君が代のことである。今西兼二(横浜正金銀行ホノルル支店長)が、「日本婦人とその家庭」という題でスピーチをした後、妻のいと子が、茶の湯の方式について英語でスピーチをした。琴や三味線の演奏があったり、お茶を飲んだりして、和気あいあいとした雰囲気では終わった。

この茶会でスピーチをした、今西兼二氏の妻今西いと子は元年者小澤金太郎の子孫であることがわかった。小澤は東京から明治元年(1868年)にハワイに渡り、各種の事業を手掛けた。明治25年(1892年)、ホノルルのフォート街に金太郎長屋と呼ばれる簡易長屋を5、6軒建てた。この金太郎の次男健三郎はハワイ生まれで明治43年(1910年)にハワイ県の弁護士資格を取るも、市民権は取れなかった。長男洋太郎は、日系で初めてハワイ島警察の巡査となった。彼は酒が好きであったため、「酔い太郎」と呼ばれた。よく知られている阿部三次は、洋太郎に次いで2人目の巡査であった。金太郎の娘の小澤いと子は高校を出た後、幼稚園の先生となり、横浜正金銀行の支店長の今西と結婚したという¹。

¹ 1868年に夫である小澤金太郎と一緒にハワイへ渡ったトメ(Tome; トミとも記載あり)は、当時妊娠8か月でありハワイで長男洋太郎を産んだとされており、これが初の日

また、堀アイ子という女性が、ハワイ日系人社会の中で初めてピアノ教室を 1910 年に自宅で開いた。彼女はヌアヌ日本人教会の堀貞一牧師の妻であった。このような「元祖」が続いて現在がある。

【曲】

「君が代」

【サブジェクトタグ】

文化 大和歌 元年者

系 2 世の誕生とされている (Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照)。洋太郎は、初めて日系の巡査となった人物だともされている。長女のいと子は 12 歳でハワイ王国政府の日本語通訳官として働いたとされる (Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照)。

第3回目（1993年10月？日放送）

【いろはがるた】

「盗人の昼寝」: A puzzling nap by a thief¹.

【話の内容】

20年位前に山本常一(元ハワイ報知社長)からもらった手紙を紹介する。

山本は4月20日の「ヒロタイムス²」に掲載されたホレホレ節の記事を面白く読んだという。ホレホレ節の名人米屋三代槌(こめやみよつち・米屋旅館の館主)の直弟子であった山本は、戦後、日本でレコーディングなどをするほど、ホレホレ節に明るかった。しかし、戦後に歌われていた歌は、パーティー等に合うように変えられており、歌本来の機微が分らないと山本氏は言う。

「ヒロタイムス」の記事によると、このホレホレ節の元歌のようなものは峯岸繁太郎³により作られたそうだ。峯岸は「太平楽⁴」という本を出しており、山本はこの本に非常に感銘を受けたという。

広島の実節がハワイに来てホレホレ節になった。「広い太平洋によお、なぜまあこんな小さい島を作った」というのが実節であった。ホレホレとは、女性の仕事で、サトウキビの枯れた葉っぱを剥く仕事である。それからカチケン⁵して、ホウハナ⁶して、ハツパイコー⁷してミル(圧搾機)へ持って行く。それらの仕事は女性たちの仕事で、写真花嫁たちは黙っているとしんどいので、歌いながら作業をしていた。

みんなの先陣を切って歌うリーダーはプランテーションから25セントをもらっていた。

¹ 意味をなさない文である。“A purposeful nap”を読み間違えたか。音トビしており、第4回目の放送と同じ音声が出る。

² 1955年に大久保が発刊した新聞。

³ 峯岸繁太郎は『京城新報』の社長。水戸出身で、小笠原や南洋諸島、ハワイの開拓に携わる(金泰賢、『朝鮮における在留日本人社会と日本人経営新聞』, 神戸大学, 2011年学位取得論文参照)。

⁴ 大久保は「太平楽」の著者を峯岸重太郎としているが、移民研究者の飯田耕二郎によれば曾我部四郎の保能武義塾に関係していた奥山藤太郎(愛媛県宇和島市吉田町出身)の可能性が高いという。

⁵ Cutting caneのこと。サトウキビを切る作業。

⁶ Hoe hanaのこと。Hoeは英語で鍬、hanaはハワイ語で仕事の意。サトウキビを切った後、地面を鍬でならす作業。

⁷ Hāpaikōのこと。Hāpaiはハワイ語で運ぶ・背負うの意。Kōはハワイ語でサトウキビの意。切ったサトウキビを担いで運ぶ作業。

合いの手を「そのわきやチャッチャで、ヌイヌイ○○⁸」といれる。

しかし、「太平楽」という本に収録されているホレホレ節には、ハイクラスなユーモアと哲学が見える。

「ハワイ八島はよお、砂糖と共に、とうとうメリケンに舐められた」米布合併に関する歌。

「鬼をも食うようなよお、カナカ⁹のワヒネ¹⁰、あれもポイ¹¹食うて育ったか」同じものを食べて育ったはずなのに、ハワイアの女性は恐ろしいほど大きい。

「ハワイじゃ気ままのよお、モイモイ¹²なされ。明けのカラスが鳴きやすい。カラス鳴くよりよお、寺の鐘よりも、朝の出鐘がなおつらい」誰かが死ぬよりも、起こしの鐘¹³が聞こえるのが悲しい。

「故郷で損してよお、ハワイで儲け、やがて故郷へ帰り花」花と「～ばな」という広島弁(口調)をかけているしゃれた歌。

「行こかアメリカよお、戻ろか日本、ここが思案のマウイ島(迷い島)」戦後の歌は、「行こかメリケン、帰ろうかジャパン、ここが思案のハワイ島」というが、オリジナルはちよつと違った。

「ハワイ八島をよお、渡りのワヒネ、三々九度目のカネ¹⁴は誰」ハワイ諸島を渡り歩く娼婦が、339人目の男は誰か？ということだが、結婚と掛けている。

「たとえ弁当はよお、忘るとても、忘れしやすな雨合羽」

ホノルルでは雨が降っても軽いシャワーで済むが、ヒロでは大雨となる。雨除けの支度をしなくては、大ごとになる。

【曲】

⁸ たとえば「そのわきやチャッチャでヌイヌイハナハナ」など。ヌイヌイはハワイ語で大きい・たくさんを表す nui、ハナハナはハワイ語で仕事を表す hana を繰り返したもの。

⁹Kanaka. ハワイ語で人間の意。後から来た移民たちに対し、先住民であるハワイアンを意味する言葉で使われる。

¹⁰Wahine. ハワイ語で女性・妻の意。

¹¹蒸したタロイモに水を加えながらつぶしたもの。ハワイを含むポリネシアの島々で主食として食べられている。

¹²Moi. ハワイ語で寝るという意味の語を二回繰り返したもの。

¹³愛知県犬山市にある博物館明治村には、大久保が寄贈した「ペペケオ耕地の鐘」が「ハワイ移民集会所」エリアに展示されている。

¹⁴Kane. ハワイ語で男性・夫の意。

「ホレホレ音頭¹⁵」(作詞・作曲:レイモンド服部 歌:島倉千代子・村田英雄)

【サブジェクトタグ】

ハワイ報知 ホレホレ節 サトウキビプランテーション プランテーションの暮らし ピン語

¹⁵ ハワイ日本人移民七十五年記念としてつくられた。民謡風で哀調の「ホレホレ節」とは違って、明るい曲調で踊りも添えられ、今でも盆踊りで踊られる(中原ゆかり(2014)『ハワイに響くニッポンの歌ーホレホレ節から懐メロ・ブームまで』人文書院.)。

第4回目（1993年10月2日放送）

【いろはがるた】

「盗人の昼寝」: A puzzling nap by a thief¹.

【話の内容】

1911年(明治44年)1月16日の「ハワイ殖民新聞」に「黄白の結婚」という記事があった。ハワイ島、ホノカア在住増田増次郎(大工)の娘マサコは、ヘンリー・リカードと結婚することとなった。「らしゃめん」(白人の妾)のような関係はこれまでもあったが、正式な「結婚」という形をとったのはこれが初めてでなかろうか。排日という当時の日米関係を考えても、称賛されるものだ、といった具合に新聞では紹介していた。

それから10年後の1922年、「雑婚問題」という記事がマキキ教会の奥村多喜衛牧師によって「日布時事」に書かれた。この記事が書かれたのが排日移民法が制定された1924年頃ということもあり、日本人排斥論が盛んに論じられるようになった。「日本人は幼い時から世界最大の人種、神の国であり、他の人種を征服すると教えられるため、ハワイでも雑婚を避けている」という考え方に対し、奥村は日本からハワイに行ったばかりで言葉が通じないために雑婚を避けていると批判した。そして、ハワイ全島の国際雑婚を調査した結果、ハワイ島には59組、マウイ島では26組、モロカイ島で6組、オアフ島では30組、カウアイ島に25組の雑婚が確認された。1世は言葉が通じないので、異人種間の愛が育まれないが、2世は他の人種と同じ学校に通いながら育ったので1世よりも異人種間で愛を育みやすく、将来、雑婚が増えるのは明白であると奥村は説明した。

現在、雑婚はその数を数えられないほどである。ジョン・ワイヘエ元州知事の妻はリン・コバシガワ・ワイヘエという三世であり、フランク・ファシ元ホノルル市長(郡長)の妻もヒロ出身の三世である。パッツィ・ミンクも名前は白人の名前のように見えるが日系である。さらには、ステファン・ヤマシロ元ハワイ市長(郡長)夫人は白人女性で、ジョアン・ユキムラ元カウアイ市長はご主人が白人である。

1881年にカラカウア王が日本に赴いた後、駐日ハワイ公使であったロバート・アーウィンが官約移民に尽力したが、その彼が両替商の娘²と結婚をした。このような先人達の頑張りがあったから、日系人・日本人は現在ハワイ社会で大きな顔をしていられる。

¹ 意味をなさない文である。“A purposeful nap”を読み間違えたか。第3回目の放送と同じである。

² 武智イキのこと。

【曲】

「二世行進曲」(作詞・作曲:古賀政男)

【サブジェクトタグ】

ハワイ殖民新聞 日布時事 結婚 雑婚 奥村多喜衛

第5回目（1993年11月6日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

ヒロとホノルルをラインでつないで放送している。ヒロは秋雨である。大久保は10月8日にロサンゼルススの娘の家に4日泊り、一度ヒロに戻り、その1週間後には東京で8日過ごし、10月28日に戻ってきた。東京から帰ってきたホノルル空港で日本航空のスタッフに声を掛けられ、大久保の荷物をハワイ航空の場所まで持って行ってもらったが、その人はこの番組を聞いている人だった。

昔は銀座や新橋のナイトクラブへ遊びに出かけたものだが、今回は、滞在した都ホテルでの話し合い、説明会など仕事ばかりであった。国立国会図書館の人たちも5人でわざわざホテルに来てくれ、翌日は明治村東京事務所の方や、市ヶ谷の私学会館からもホテルまで来てくれた。また、大木浩参議院議員（元ハワイ総領事）も来てくれた。ホテルから出ずに、用事が終わった。

この11月、ハワイ島出身のマーガレット・小田¹博士が瑞宝小綬章の叙勲を受けた。父親は広島からの移民である栗栖悟である。栗栖も勲章をもらっており、親子そろっての叙勲者となった。奥山（友雄）さん²も叙勲された。山梨からの移民であった父奥山朝秀も叙勲していることから、親子そろっての叙勲者である。亡くなった両親が喜んでいるだろう。さらにハワイ島からは、元年者の桑田松五郎の孫である元ハワイ市長（郡長）トマス・クック³も叙勲された。この桑田松五郎は日本人からもハワイアンからもウミウミ⁴マツと呼ばれていた。彼はハワイに来る前に横浜で法衣などを扱う仕立屋をしていた。その後、3年の契約でハワイのサトウキビプランテーションに来たが、3年の年季奉公が明けるとすぐにマウイ島で仕立屋を始めた。ハワイ生活14年目にハワイ女性と結婚し、トマス・クックの母となるキミをもうけた。キミはプランテーションの測量技師のクックと結婚した。また、ヒロのユニオンスクールの先生をしていた。

東京にいた間、ハワイ島の姉妹都市である伊豆大島の市長が来た。椿の種を贈る

¹Dr. Margaret Y. Oda. ハワイ島ワイレア出身の教育者。

²Tomoo “Tom” Okuyama. ハワイ島ヒロにあるワイアケアで始めた肉屋からスーパーマーケット経営まで成功したビジネスマン。

³ Thomas “Lofty” Cook. 1960年のチリ地震の影響により、ヒロは10.5mの津波の被害を受けた。これを背景に、クックはハワイ市長として日米の津波警報システムの設立に尽力した。

⁴ ‘Umi’umi. ハワイ語で髭の意。

ので各家庭で咲かせて欲しいとのことであった。大久保は 2 世の古川千代美の歌う「椿咲く島」のレコードを大島に贈ることを考えている。

【曲】

「椿咲く島」（歌：古川千代美 演奏：松竹オーケストラ）

【サブジェクトタグ】

元年者 日本航空 有力者 コミュニティ

第 6 回目 (1993 年 11 月 13 日放送)

【いろはがるた】

「かったいのかさ恨み」: A leper patient wishes that his disease were suffer less.

【話の内容】

この何十年、日本とアメリカの間では米をめぐる問題があった。日本にアメリカの米を購入することが争点であった。1914 年の新聞によると、中国人とハワイアン¹のハパ¹であるアーネスト・アキナがコハラのニウリイで 300 エーカー(1 エーカー=1200 坪)の米作をしていた。中国から 100 人の労働者を連れてきたアキナは、大規模な米作を行い、アメリカ本土に米を輸出した。当時アメリカは第一次世界大戦の真っただ中で、本土から米が流通することもなかったため米作で財をなした。アーネストはのちに議員になったが、弟のアーサー・アキナはコハラ警察署長になったのちにハワイ下院議会で議長となった。

大正 7 年という、日本では大飢饉があった。当時、東京で勉学に励んでいた大久保は、ベトナムの方から来た長い米を食べていたが、まったく味がしなかったという。日本の米はそれより短く、丸っこく、甘みがあってやはりいい。

熊本出身の彌永寅吉は、明治 39 年 3 月に日本からおかぼ(陸稻)の米を持ち込み、同年 4 月 18 日に米を 3 合、もち米 2 合をコナのケアラケクアのコーヒー農園で栽培した。ハワイ初の日本からの陸稻は、その後、米が 65 貫、もち米が 38 貫できたという。ヒロで米を作らなくなったのは、サトウキビに押されたためだが、今は水田の跡もない。

自分は米どころ新潟の出身だが、水田は休ませると良いお米が作れるという訳でもない。日本の南の方では、1 年のうちに 2 回米が作れるが、北の方では 1 年に 1 回しか米がとれない。東北の農家はいい米ができてもお金が稼げるわけではない。明治初期に 3300 万に留まった日本人の人口は、大正 5 年には、樺太、台湾、朝鮮なども併せて 6000 万にまで増加した。戦争が終わり、樺太、台湾、朝鮮などがなくなっても、日本は 1 億 2000 万という人口をかかえている。昔は個々の水田は小さく、手作業だったが、今は大型化が進み機械で米作が行われる。確かに昔の農村風景も良いが、米がとれなくなり、輸入に頼るのも問題である。また、やはり機械(自動車)を作る方がお金もうけにはなる。そのあたり、米などの問題について、アメリカと日本でごたごたしているが、うまくしてくれよ、と細川護熙総理には期待を抱いている。

¹Hapa. ハワイ語で半分の意から、ハワイアンとのハーフを意味する。現代ではハワイアンとのハーフに限らず、日本人と白人のハーフも意味する言葉としてハワイやカリフォルニアなどでも使われている。

【曲】

「旅愁」(歌: 武田テル子 演奏: 松竹オーケストラ)

【サブジェクトタグ】

稲作 ハワイ島 日米関係 有力者

第7回目（1993年11月20日放送）

【いろはがるた】

「葦の髄から天井を覗く」: To see heaven through a reed bar.

【話の内容】

日本に行った帰りの飛行機の中で、10月28日付の「東京新聞」に「100年前の不法行為、ハワイ王朝の転覆 アメリカ上院が謝罪決議」という記事が目にとまった。その決議案は、1893年にハワイ王国を倒し、自治権を奪ったことについて、公式に謝罪するというもので（補償やハワイ州独立には触れていない）賛成65票、反対24票で可決された。良くやったと思ったのは、採決の際、ダニエル・イノウエ上院議員がハワイ王朝転覆の謝罪を求めたことである。

1885年にカラカウア王がハワイから日本に行ったとき、日本に2つのお願いをした¹。①移民の受け入れ②アメリカやイギリスの圧力に対抗するため、日本を盟主としたアジア環太平洋の同盟をつくりたい。翌年、明治天皇は、日本にはまだ十分な国力がないとして、②の提案には賛成しなかった。

ハワイ王国がなくなってから100年。ハワイの総人口は何百万人だが、25%は日系人で、もう100%のピュアハワイアンを探すのはとても難しい。日系も、さまざまなバックグラウンドとのミックスが多い。大久保は25年前から自分のことをパシフィックシティズン、太平洋市民と言っている。

ハワイに来た日本人移民はどれだけ役に立ったか？日本人移民はハワイのためにも日本のためにも働いた。志賀重昂先生は、年間1200万円ものお金を日本へ送ったという。そんな人たちの次の世代が、ダニエル・イノウエのように上院議員にもなり、ジョージ・アリヨシのように州知事にもなり、フジオ・マツダ（松田富士夫）のようにハワイ大学の総長にもなった。これもひとえに親のおかげであるが、彼らこそが、太平洋市民の代表と言えよう。

第二次世界大戦中に抑留され、その補償として2万ドルをアメリカ政府が払ったが、大久保氏も受け取った²。その補償金でまず400冊のハワイで使われた日本語教科書を日本へ持っていき、「母国（日本）に誇る100年の日本語教育」という教科書の展示を行った。このような過去の資料が資料館にもあるが、国会図書館の神さんから電

¹ カラカウア王が日本を訪れたのは1881年である。1885年はカラカウア王の請願に応える形で日本からハワイへの官約移民が始まった年である。

² 1988年の「市民の自由法（Civil Liberties Act of 1988）」により、第二次世界大戦中に収容・転居を経験した日本人・日系アメリカ人の残存者1人につき2万ドルと大統領からの謝罪の手紙が送られることが決まった。

話が来て、大久保氏は戦争の苦しみは身に染みたと話を話した。アメリカは間違いを謝って補償金もくれた。日本からはというと、領事館からアラーム時計をもらっただけである。お金の問題ではない。御苦労さまという気持ちを何かで表してほしいと思う。大久保氏はサンタフェ³の収容リストを持っているので、そのような気持ちを表す意味でもぜひ国会図書館に入れて欲しいということ話を話した。

沖縄県人は特に日の目を浴びるのが遅い。在布邦人が日本から叙勲されるのは1964年からだ、他人から聞いた話によれば、沖縄はアメリカ占領下にあり、遠慮があったからか沖縄の功労者への感謝が遅れた。他県より遅れはしたが、ダクタ⁴・マタヨシ(又吉全興)や長嶺将範らにも勲章が与えられた。

補償問題は全て解決したかと言うと、本土ではリロケーション(転居)の人たちは地獄物語であっただろう。自分の家を捨てて、収容所へと行かなければならなかった。生きていないと補償ももらえない。本当に苦しんだ人たちは、補償が決まったころにはもうほとんどが死んでしまっていた。

【曲】

「異国の丘」(歌:青木春雄 演奏:松竹オーケストラ)

【サブジェクトタグ】

ダニエル・イノウエ 教育 リドレス 強制収容・退去 ハワイ王国

³ ニューメキシコ州サンタフェにあった敵国人抑留所。司法省や陸軍により運営され、ハワイからは開戦前より作成されていたブラックリストを基に逮捕された新聞記者、日本語教師、僧侶などのコミュニティ指導者層がこのような敵国人抑留所に抑留された。

⁴ Doctor の意。

第 8 回目 (1993 年 11 月 27 日放送)

【いろはがるた】

「旅は道連れ、世は情け」: No road is long with good company.

【話の内容】

「社会がると」、すなわち日本の格言として、「話し上手は聞き上手」「人のうわさも 75 日」「年寄りのくり言葉」「長生きしたくば嘘言うな」「真の言葉に飾りなし、飾り言葉に真なし」「年寄りの言葉に真理あり」「醜きは人を貶して笑う口」「八十の手習い」などの意味を説明した。

KZOO の別番組の放送も聞いているが、先日の宗教家の話に感銘を受けた。宗教とはメンバーじゃない人をメンバーに入れるものだが、最近ではあたかも「〇〇教会株式会社」のように、宗教はメンバー以外には閉ざされている存在になっている。昔はヌアヌキリスト教会¹に、コミュニティーリーダーであるハワイ報知の寺崎定助、タハラ医師、渡邊次郎らがいき、受け入れられていた。

移民当初も人々はお寺に行っていたが、移民当初のお寺は宗派のお寺ではなく、各宗派が集まって在留同胞のお寺として一緒にお寺を建てた。苦しい移民初期の時代には、物質的なものより精神的なものの方が重要であり、宗教や宗教リーダーの存在はとても大きかった。今村監督(浄土真宗本願寺派の今村恵猛総長)も人々に慕われて、皆から「総長」ではなく、「監督」と呼ばれた。新聞記者として聞き取りに行っている時でも、今村夫妻(妻は清子)はとてもよくしてくれた。

昔の新聞記者というものは、電車にも乗らず歩いて情報を集めて回ったものである。豊平良金(豊平走川:「日布時事」の記者)らも電車賃を節約するために足で記事を稼いだ。新聞どうしの喧嘩が多く、当時の日記帳に「『ハワイ報知』と『日布時事』の関係は、イヌが西向きや尾は東」と書いていた。今と違って投票権がなかった当時、日系人は自分の思想などを学校やお寺、県人会などでぶつけ合っていた。けんかをする新聞が、いい新聞としてよく読まれた。山村火山(山村幸八)という人の「火山新聞」は、一番の「けんか新聞」であり、そのような新聞の多くが資料館にある。一つよりも、競争相手があった方がいいものになると言えるが、当時の新聞は、同胞の権利を守るためにあった。「ヒロタイムス²」は、1 世の幕引き新聞であり、1 世がいなくなったのを機に、大久保は 36 年間の新聞記者の仕事も終わった。

【曲】

¹ ヌアヌキリスト教会のウェブサイトでは当時の様子が確認できる。http://nuuanu.org/

² 1955 年に大久保が創刊した新聞。

「乙女の門出」

【サブジェクトタグ】

宗教 1世 今村恵猛 ハワイ報知 日布時事 新聞記者

第 9 回目 (1993 年 12 月 4 日放送)

【いろはがるた】

「良薬は口に苦し」: Good medicine tastes bitter.

【話の内容】

あと3日で忘れられない真珠湾の日がやってくる。ホノルルは真珠湾攻撃を目の当たりにした。しかし、ホノルルから飛行機で40分かかるヒロでは、70パーセントの人が演習だと疑わず、まさか戦争だとは夢にも思わなかった。大久保は7時に子どもと一緒に洗濯物を取りに行った時に開戦のニュースを聞いた。ガソリンスタンドに立ち寄った後、日本人商工会議所二階で会議を開いたが、10人中7人が演習だったと思った。

ボルケーノに住んでいた椰子島日本語学校の永倉永造先生、ハワイ日本人商工会議所書記の落合恵吉(ともに静岡県出身)がその晩に逮捕され、ボルケーノ兵舎を収容所にしたところに連れて行かれた。大久保もそこに入れられた。

開戦に伴い、ハワイ島の軍政法において、次のことが決められた。ラジオの音を大きくするな。12月7日発の汽船および飛行機の運航取りやめ。自動車での外出禁止。路上駐車禁止。電話を控えるように。火をたくことを控えるように。外国語放送(日本語放送)は中止。ヒロ飛行場付近への立ち入り禁止。ヒロ病院への見舞い禁止。

12月8日付のハワイ毎日では政府当局の発表を報じている。内容は、第24号法案の実施についてであった。まずは学校の休校、ついでガソリンの販売の中止。全ての外国人はおとなしくして、仕事をしろというものであった。

また、日本人の一般同胞への注意として、どれだけ食べ物の備蓄があるか報告すること。できるだけ車に乗らずに歩くこと。食べ物一切は、商工会議所に相談してからもらうようにすることというものである。注意事項の内容は島によって様々であった。

大久保は12月7日の12時に逮捕された。日本語放送をしながら新聞記者をしていた大久保は、火をつけてご飯を家族と食べていたところ、ロシア系アメリカ人が火を消せと言った。そして、ロサンゼルスラジオ放送をつけたところ、「大統領が太平洋沿岸の日本人3000人を監禁、抑留する」と言っているのを聞き、ネクタイ、コートを着け、自分のところにもくるかなと思って待っていた。すると12時に警官が大久保のもとに来た。警官は、大久保が準備をして待っていたことに驚いたという。機関銃を持った警官にカピオラニスクールで身体検査をされ、雨が降る中、収容所へ連れて行かれた。

「ハワイ報知」の矢野茂(熊本出身)は、アメリカの抑留所へいったときに腹が立った話があるという。「子犬が来た子犬が来た、大犬は来んが、子犬が来た」と他の人から言われたという。大犬とは牧野金三郎(ハワイ報知社長)、子犬はその部下であ

る矢野のことである。ハワイ報知から引っ張られた人は少なく、「日布時事」の方が多かった。牧野は特にひっぱられなかったので、「ハワイ報知」はイヌ(アメリカのイヌ)と呼ばれた。大久保は 39 日後に監視付で抑留所から解放された。その直後にハワイ報知で牧野の側近であった熊崎熊一から、手紙が来た。内容は、「大久保が出られたのは、牧野社長の尽力によることを忘れないで欲しい。現在、新聞を発行しているのは、軍部の要望であり、英語を解せない1世のために行っているが、費用面は厳しく、軍部が責任を持って便宜を図ってくれることになっている。各島に支局員がいないと不便ということで大久保が解放された。牧野社長も大久保に一層活動して欲しいと考えており、もしできない理由があれば軍部に伝え、島の司令官に手紙を出して、やりやすいようにする。ヒロ市の読者の募集も頼む」というものであった。

しかし、実際のところ、新聞は、軍が検閲しているので、いい新聞ではなかった。また、新聞をとってくれと行ったところが翌日引っ張られるようなこともあった。

戦争よりも日本人の気持ちは反米ではないということをはっきりと言いたい。

【曲】

「二世行進曲」(作詞・作曲:古賀政男)

【サブジェクトタグ】

第二次世界大戦 真珠湾攻撃 強制収容・退去 戒厳令 戦時の暮らし 新聞記者
キラウエア米軍基地(抑留所) 牧野金三郎

第 10 回目（1993 年 12 月 11 日放送）

【いろはがるた】

「総領の甚六」: The eldest son is a block head.

※大久保家は男 6 人、女 4 人の 10 人兄弟であり、大久保は 8 番目の子供だった。跡継ぎだったので、食事の時には親の隣に座っていたという話もしている。

【話の内容】

ヒロの大久保のところに、ワイパフに住む女性から電話がかかってきた。女性はエヴァ出身のサトウという女性で、もともとは福島出身だという。大久保は 1924 年に 2 か月間、キリスト教のアパートメント寄宿舎でプランテーションの勉強をしたことがあるが、そのエヴァプランテーションだけで、福島からのサトウさんが 10 人、新潟からのサトウさんが 9 人いた。これだけサトウがいれば、誰かわからなくなるので仕事の名前を付けて「カチケン¹サトウ」のように呼んだ。

ハワイ島コナコーヒーが初めてアメリカで販売されたのは 1845 年。ハワイ植民新聞によると、最初は 248 パウンドしか輸出されていなかったコナコーヒーだが、その輸出量は年々増えていった。

現在 4 時間半ほどでハワイ島を一周できるが、1909 年 8 月 9 日の「ハワイ植民新聞」の記事によると、7 月 11 日、オラアプランテーションのオーナー Mr. ワット (Jno Watt) は自動車で 16 時間かけてハワイ島を一周 (約 253 マイル) 回った。

1928 年に大久保がコナに来た翌年車を買ったが、それは 250 ドルかかった。また、コナからヒロへ行くのに 6 時間かかった。うらも、30 年ほど前にシボレーを買ったが 350 ドルかかった。現在では道もきれいに整備され、車の性能も上がり便利になった。

「yesterday、today、tomorrow」というように、移民資料館は次の世代に歴史をつなぐ大切な役割がある。多くの人がいろんな場所から自分の親を探すような親孝行の人がコナの移民資料館を訪れる。

【曲】

「東京セレナーデ」

【サブジェクトタグ】

プランテーションの暮らし

音トビ (18 : 23-18 : 28)、(18 : 40-18 : 44)

¹ Cutting cane のこと。サトウキビを切る作業。

第 11 回目（1994 年 1 月 1 日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

1994 年 1 月の初めての放送ということで、日本の農村で過ごしたお正月の思い出をする。大久保は新潟の農村出身であり、正月といえば外は雪深く、遊びに行くことはなかったが、着物等、身の回りの物について一式新しいものをもらう嬉しい日であった。ハワイは日頃からぜいたくなので、そんなことをしないが、新しい年を迎えるという気持ちでいっぱいであった故郷の正月を思い出す。

ハワイ日系人社会でのさまざまな元祖を紹介する。貸家業の元祖は元年者の小澤金太郎。東京から妻を連れてハワイへ来た。サトウキビ畑で働いた後、1892 年ごろホノルルのフォート街に簡易貸家を作った。これは日本人から「金太郎長屋」と呼ばれた。子どもは 3 人。長男洋太郎はハワイ島で初めて日系の巡査になった。酒飲みなので、「酔い太郎」と呼ばれた。次男は健二郎（健三郎）。長女（イト¹）は今西兼二（横浜証券銀行ホノルル支店長）の妻²。

勝沼富造医師。米西戦争の時に陸軍に志願し戦争に参加したことにより、市民権を持っていた。福島県出身で、1898 年にアメリカ留学からハワイに渡り、ハワイ国移民局の通訳官に任命された。移民局通訳官の元祖。

歯医者 of 元祖は朝比奈梅吉医師。明治 18 年 2 月の移民船で静岡県からハワイに来たが、いったん日本に帰り、その後明治 21 年に再度ハワイに渡りホノルル・パウアヒ街に開業。

桑原秀雄、石田銈吉が日本語教師の元祖。桑原秀雄はホノルルで日本人学校を

¹ いと子とも表記される。飯田耕二郎（2014）「移民の魁：星名謙一郎のハワイ時代後期—ワイあるあ耕地監督・新婚の頃—」、『大阪商業大学論集』第 9 巻第 4 号, 97-112 参照。

² 1868 年に夫である小澤金太郎と一緒にハワイへ渡ったトメ（Tome；トミとも記載あり）は、当時妊娠 8 か月でありハワイで長男洋太郎を産んだとされており、これが初の日系 2 世の誕生とされている（Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照）。洋太郎は、初めて日系の巡査となった人物だともされている。長女のいと子は 12 歳でハワイ王国政府の日本語通訳官として働いたとされる（Gary Okihiro “The Japanese in America”, Brian Niiya 編集, *Japanese American History: An A-To-Z Reference from 1868 to the Present*, pp.2-3 参照）。

1896 年に開校し、1899 年にカウアイ島のリフエに石田が日本人学校を設立した。コナに住む林医師(林三郎)の妻がアコーディオンで日本語の歌を二世たちに教えた。彼女は会津若松藩の城代家老の家の娘であったのでそれができた。

婦人記者の元祖は、明治 44 年にハワイ新報の記者となったムライ・ミチコ(ペンネーム橋本みどり)³である。

洋装婦人の元祖は、新橋芸者小菊である。1893 年、桂馨五郎弁護士の呼び寄せでハワイへ渡った。当時のハワイ日本女性は自分が持ってきた日本着かハワイアン⁴のホロク⁴を着ていた。⇒墓を 3500ドル出して直した話もある？(脚注記載?)

堀貞一牧師の妻、堀アイ子が琴の先生の元祖。

魚市場のせりの元祖は和歌山県出身の中山市太郎である。明治 35 年にホノルルのキングストリートの前の魚屋でオークションをしたのがはじまり。

婦人伝道者の元祖は宋(溝部)栄子である。神戸女子神学校を卒業した彼女は、1895 年ハワイ婦人伝道会社の招へいでハワイへ渡り、1913 年ホノルルに幼年寄宿舎を作った。

【曲】

「春が来た」(作詞:高野辰之 作曲:岡野貞一)

【サブジェクトタグ】

移民の暮らし 一世 元年者 コミュニティ 有力者

³ ムラキ・ミチコ(橋本伊智子)の誤りか。

⁴ 宣教師との接触以後、ハワイアン女性が着るようになったムーモードレスの裾が長くなったようなもの。

第 12 回目（1994 年 1 月 8 日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

銀行の大切さについての話。移民の時代には銀行がなかった上、お金を貸してくれなかったので頼母子が銀行の代わりだった。子どもを学校に行かせるために、皆、頼母子講をしたものだ。

ヒロの本願寺の話。1889 年（明治 22 年）日本から利口なお坊さんがハワイに来た。木村斎次移民監督官がこの機会にヒロに寺を建てようとした。フロント街（現カメハメハ街）に 460 坪（半エーカー）をハワイ王国から借りて建てた。1902 年にハワイ王国から米布合併後のハワイ県となると土地の契約が切れ、ヒロ本願寺はキラウエアの方に移動した。同じころには、長野県出身の岡部次郎伝道師¹がヒロ市内やプランテーションのキャンプ内にキリスト教会を作っている時期であった。移民資料館には、建築趣意書があるが、ヒロ本願寺は、本願寺の信者だけでなく他の宗派の人々からの寄付も受け建てられたが、これは仏教という名の下に皆が一つになった運動であったと言えよう。本願寺というよりも在留民みんなのためのお寺となったのだ。お互い様に寄り添って、ハワイ社会を作り上げてきた。

日本の米問題。以前、1 年で三千万ポンドの米がハワイでとれていた。1 千万ポンドをアメリカに送り、残りを日本と中国に送っていた。移民の子供たちはもちろん、現代日本からハワイへやってきた PJ (Pure Japanese) たちに、どれほど HJ (Hawaii Japanese) が日本のことを思ってきたかを知ってもらいたい。例えば、明治 30 年に軍艦浪速がハワイへ来たとき、彼らに対して現地の日本人は 123 ドル 13 セント集め、牛 2 頭、コーヒーが 300 キロ、果物大きな 1 箱送った、ということを書いている。カウアイ島ではニワトリ 50 羽、アヒル 60 羽、ゴボウ 180 束を送った。自分たちの生活も苦しい中、祖国にハワイを知ってほしい、祖国に感謝をする気持ち一心でこのような貢献をした。

¹ 1889 年にサンフランシスコからハワイへ渡った岡部は、既にメソジストの美山貫一により布教活動がすすめられていたホノルルを避け、ハワイ島ヒロを中心に布教活動を進めた。1890 年にセントラル・ユニオン教会で按手礼を受け、1891 年の日本人教会独立に伴い設立されたヒロ教会の牧師に就任した。（飯田耕二郎（2011）「移民の魁・星名謙一郎のハワイ時代前期—キリスト教伝道師の頃—」『大阪商業大学論集』第 6 巻第 4 号, 27-41 参照。）

ココナツは実がつくまでに 8~9 年かかる。カナカ²はそのココナツを何にでも使った。例えば家や服、飲み物食べ物、武器、食器、油、船などである。

「豆で四角でやわらかで、豆腐のような人になれ人」と豆腐屋の社長が言っていた。「持ちつ持たれつ」を忘れず暮らしていきたい。

【曲】

「春の小川」

【サブジェクトタグ】

頼母子 仏教 ヒロ本願寺 軍艦浪速 練習艦隊 岡部次郎

² Kanaka. ハワイ語で人間の意。後から来た移民たちに対し、先住民であるハワイアンを意味する言葉で使われる。

第13回目（1994年1月15日放送）

【いろはがるた】

なし

【話の内容】

大久保は1924年にハワイへ来てから、新聞記者をしていた。それから戦争までの間の真面目男といえば、ハワイ報知主筆であった寺崎定助(クリスチャン)であった。ハワイ報知社長の牧野金三郎でも「さん付け」で呼んだほどの男であった。日布時事では豊平走川(とよひらそうせん)、川添樗風(かわぞえけんふう)といった記者たちが真面目男として挙げられる。「ちゃんの三人男」と呼ばれる三人衆もいた。一人目はハワイ新報で手伝っていた小林虎男(とらちゃん)。二人目はヤマグチ・ノブオ(のぶちゃん)。三人目は吉田信次(ぶっちゃん¹)であった。相賀安太郎(日布時事主筆)、牧野金三郎(ハワイ報知社長)はスケールが違った。

1953年にハワイ支店を開いた日本航空は「飛べば飛ぶほど赤字の日航」と言われた。1952年に野原克也(4代目の支店長)が日本からやってきて、支店開設のために働いた。たった8人の従業者からはじまった。当時はマーチャント通り²にあったディリングハムビルの中にオフィスがあった。初代所長はハタ・ヤスイチであった。2代目はクニトモ・ノブミツ、3代目は沖縄支店長だったオオシマ・セイイチ。

お客さん係が前田さん、外人の係が池田夫人だったが、日本語学校の教師なども務めたマエダの後に客室担当だったのは長谷川鶴蔵だった(4代の支店長に仕える。。「つるさん」と呼ばれ、みんなに愛された。

今は(日航)飛行機で日本とハワイの移動も楽になったが、「いく千里隔てて菊の香りかな」と思う放送だった。

【曲】

「ふるさと」

【サブジェクトタグ】

ハワイ報知 ハワイ新報 日布時事 日本航空 コミュニティ 有力者

¹ ぼっちゃんの間違いか。

² ダウンタウンのサウスキング通りとアラモアナ大通りの間に挟まれ、ヌウアヌ通りとフォート通りを結ぶ短い通り。

第 14 回目 (1994 年 1 月 22 日放送)

【いろはがるた】

「安物買いの銭失い」: Buying cheap often means wasting money.

【話の内容】

北村光餘子アナウンサーがキリスト教アワーをやっているので、話をしてみた。北村さんに渡そうと思って、「ハワイ日本人キリスト教伝道 60 年記念誌」を探したところ、その記念誌にクリスチャン日系兵士に関する記事があった。1942 年 7 月 18 日日曜日の朝、4 人の日系兵士がウィスコンシンの教会に現れた。当時、反日感情が高まるアメリカであったが、クリスチャンの白人たちは笑顔で 4 人を迎えたが、誰も握手をするために手を差し伸べなかった。しかし、4 人は一番後ろの席に座り、讃美歌を元気に歌った。4 人の敬虔さを目の前にした教会の人々は、日系であっても同じ神を信じる仲間(信仰の仲間)だと日系兵士を見直し、さらに自分の 3 人の息子も軍に入っていた牧師は、クリスチャンソルジャーと親しみをもって迎え入れた。欧州での戦いに送られ激戦を経験した日系兵士の帰還(名誉の戦死も含む。)を、教会の人々はわが子が帰るかのように喜ぶとともに忠魂碑を作った。次の日曜日には、大勢のクリスチャンソルジャーが来て、自分の家に歓待した。このような日系人に対する反感の気持ちを前向きなものに変えてくれた 4 人のクリスチャンソルジャーとは、ホノルルからウィスコンシンへ行っていたイノウエ・シゲル¹、ミヤモト・タモツ²、スガヤマ・チョウショウ³、コバシガワ・ショウエイ⁴であった。

【曲】

「讃美歌⁵」(演奏: 小原百合子⁶)

【サブジェクトタグ】

¹ 1919 年ホノルル生まれ。第 100 歩兵大隊ではまずキャンプマッコイ、キャンプシェルビーでの訓練中は D カンパニーに所属。ヨーロッパに送られた後には、C カンパニーに所属となりイタリアカッシーノ戦線に送られ衛生兵として働いた。

² 100th Infantry Battalion Veterans Education Center のデータベースでは確認できず。

³ 100th Infantry Battalion Veterans Education Center のデータベースでは確認できず。

⁴ ワイアケア生まれ。兄弟に同じく 100 大隊に入った Yeiki Kobashigawa がいる。

⁵ 官約移民の人達がどのような讃美歌を歌っていたのかを以前、調べたところ 16 の讃美歌があったと大久保は話す。

⁶ 小原国芳(玉川大学教授)の娘である。

第二次世界大戦 二世部隊 キリスト教

第 15 回目（1994 年 1 月 29 日放送）

【いろはがるた】

「負けるが勝つ(勝ち)」: Victory in defeat.

【話の内容】

前回の放送で話したクリスチャンソルジャーのことについて電話がかかってきて、キリスト教の話して欲しいとの要望があった。そこで、ハワイのキリスト教について話す。

ハワイ日系人のキリスト教のはじまりは 1885 年 2 月のシティーオブトーキョー号に乗って到着した 900 人ほどの第 1 回移民にさかのぼる。ハワイ伝道協会のハイド博士(Charles McEwan Hyde か)は日系人移民への福音伝道の必要性を感じており、クイーンエマホールにて英語でされた説教を、アメリカの神学校に通っていたアオキという人に日本語に通訳させた。ところが、2 年後アオキはアメリカに帰り、安藤太郎総領事が通訳をひきついだ。

そして次に大切なハワイ日系人のキリスト教の話といえばオアフ島にあるヌアヌキリスト教会のことである。1887 年 9 月にメソジスト教会の美山貫一牧師はサンフランシスコに来ていた伝道協会と協力しながら日本人への伝道活動を行った。1888 年には総領事の安藤太郎他 11 名が洗礼をうけ、ホノルル教会ができた。4 年ほどすると、ハワイからメソジスト教会が撤退することとなり、美山牧師もハワイを離れアメリカ本土へと去って行った。ハワイ伝道協会はキリスト教伝道を続けるため、ヒロ日本人キリスト教会の岡部次郎牧師をホノルルへ呼び、教会活動を続けた。その次にやってきたのが奥村多喜衛であった。やがてホノルル教会は、ヌアヌキリスト教会となり、堀貞一牧師や田村清牧師らを迎えた。

ハワイ島のヒロキリスト教会は 1888 年に、サンフランシスコからやってきた組合派の岡部次郎牧師によってはじめられた。ハワイ伝道協会では、2 万 5 千人の日本人労働者にキリスト教を普及すべく、岡部の力を借りて日本から数々の牧師を呼び寄せた。1892 年には奥亀太郎、高森貞太郎¹、江上源三らがハワイへ渡り、1894 年には杉山牧師、曾我部四郎、佐々倉代七郎牧師、奥村牧師が到着した。ホノルルのハリス協会は、1894 年にサンフランシスコから来た木原外七牧師がメソジスト教会再建のために奮闘し、1898 年にリバー通りに教会堂ができたがペスト病のために焼くことになってしまった。1901 年には本川源之助牧師がやって来て、教会堂を再築し、その後も様々な牧師がやってきた。

マウイ島のラハイナ教会は、1895 年木原牧師の時代に始まった。時政英作牧師ら

¹ 梶原一騎の祖父。

が来て続いてきた。オアフ島マキキ教会は、1902 年に奥村多喜衛が作った教会である。今もあるマキキ聖城教会は 1932 年に建てられた。大久保がハワイへ渡ったころはまだ木造の建物であった。

【曲】

「上海航路」(歌: 松平晃・コロンビア女性合唱団)

【サブジェクトタグ】

キリスト教 ホノルル教会 ヌアヌキリスト教会 ヒロキリスト教会 安藤太郎 岡部次郎 美山貫一 奥村多喜衛

第 16 回目（1994 年 2 月 5 日放送）¹

【いろはがるた】

「芸は身を助ける」: An accomplishment can be help for those who have acquired it.

【話の内容】

ハワイ国の革命家ウィルコックス (Robert William Kalanihiapo Wilcox) について知りたいが、知っているかとの問合せがあった。そこで、大久保氏が調べてみた。1900 年ハワイ島の「コナ反響」にウィルコックスに関する記事が載っていたのでそれをもとに紹介する。ウィルコックスは、ハオレ²の父親とカナカ³の母親のもとに 1855 年 2 月 15 日マウイ島に生まれた。ハレアカラ寄宿学校で学んだあと、25 歳の時にワイルクから議会へ出馬し当選した。その後カラカウア王が欧州へ派遣した 3 人の留学生のうちの 1 人となり、イタリアの陸軍士官学校⁴に学んだ。その間、イタリアの男爵の娘⁵と結婚した。1887 年にサンフランシスコに行き、測量技師として働いた。2 年後、妻をイタリアに戻し、自分はホノルルに戻る。1893～1895 年の王政復古の革命計画⁶で革命軍の

¹ ※音質が悪く聞きづらい

² Haole. ハワイ語でよそ者の意。転じて白人を指す言葉として使われる。

³ Kanaka. ハワイ語で人間の意。後から来た移民たちに対し、先住民であるハワイアンを意味する言葉で使われる。

⁴ Royal Military Academy at Turin のこと。

⁵ Gina Sobrero のこと。ナポリの男爵家の長女。

⁶ 1895 年のウィルコックスの反乱のこと。ウィルコックスは 1889 年にもカラカウア王に対し 1887 年の「ベイオネット憲法 (1887 Constitution of the Kingdom of Hawaii)」(ハワイ王国からほとんどの政治力を奪う憲法) を取り下げるよう反乱を起こしたが、逮捕される。裁判にかけられたが、裁判員全員がハワイアンであり無罪放免となった。1891 年にカラカウア王がサンフランシスコで死去し、リリウオカラニが女王となった。1893 年 1 月 17 日にサンフォード・ドールら公安委員会が暫定政府を名乗り、在ハワイ王国アメリカ公使ジョン・スティーブンスがこれを認めた。アライイオラニハレ (Ali'iōlani Hale. イオラニ宮殿の向いに位置する建物で現在のハワイ州最高裁判所。) を拠点とし、武装したハワイ合併賛成派がここに集合した。戒厳令が惹かれ、アメリカ海軍重巡洋艦ポストンが待機をした。リリウオカラニ女王は公使スティーブンスに抗議をするも失敗し、アライイオラニハレで武装するホノルルライフルズに対し、イオラニ宮殿をウィルコックス含む王国派の兵士で防御した。この日リリウオカラニ女王は廃位され、2 月 1 日にはハワイ王国の国旗の代わりに星条旗が掲げられた。しかし、3 月 4 日にハワイ合併賛成派であった共和党のベンジャミン・ハリソン政権が終わり、民主党のグローバー・クリーブランドがアメリカ

リーダーを務めた。王政復古の革命は失敗に終わり、サンフォード・ドールが大統領を務めたハワイ共和国政府より終身刑を言い渡されたウィルコックスであったが、1年足らずで特赦を受け出所した。1890年、1892年に議員⁷として選出されハワイアのリーダーであり続けた。1895年にはハワイ人女性⁸と結婚し子供をもうけたが、イタリア人女性との二重結婚だとして反対勢力から責められることとなった。

1899年、日清戦争が終わり日露戦争の始まる5年前、北清に滞在する兵隊の体力の比較に関する記事が出ていた。北米インディアン兵は身長が5尺7寸4分、アメリカ白人兵は5尺7寸2分、イギリス兵は5尺6寸3分、ドイツ兵は5尺6寸5分、フランス兵5尺6寸、日本兵は5尺3寸2分であった。体重が外国人兵は約17貫に対し、日本兵は15貫であったという。

そんな記事が出たころのハワイの様子はどうかというと、コナ日本人キリスト教会であった3人の洗礼に関する記事が12月2日の新聞に出ていた。

【曲】

「大陸の合唱」(歌:三門順子・樋口静雄)

【サブジェクトタグ】

ハワイ王国 コナ反響

合衆国の大統領になった。クリーブランドは1893年11月4日にリリウオカラニ女王の権力回復を命じるも、暫定政府はこれに応じず、自分たちを「ハワイ共和国」と称し、1894年7月4日に共和国の大統領としてドールが選出された。王国転覆から2年経った1895年1月6日、ウィルコックスはサミュエル・ノレインら王権派らと共和国転覆を図る。夜、サンスーシビーチ（ダイヤモンドヘッド側のワイキキの端にあるビーチ）から武器を持ち込む予定であった。密告者の通報により、革命派はワイキキからダイヤモンドヘッド、パロロ、マノア谷などへと散り散りになり、ホノルルに戒厳令が敷かれた。この事件の責任を糾弾されたリリウオカラニ女王は、10日後イオラニ宮殿に幽閉され、1月24日に王権の放棄を強要された。

⁷ ハワイ準州議会のこと。

⁸ Theresa Owana Ka'ohelani La'anui のこと。カメハメハ1世の兄の子孫の王女。

第 17 回目 (1994 年 2 月 21 日放送)

【いろはがるた】

「文はやりたし書く手は持たぬ」: Even if I want to express myself to my sweetheart, I can't because I'm too illiterate.

【話の内容】

1928 年、大久保がホノルルからコナに行った頃には、コナの日系人社会には 3 人のリーダーがいた。1 人目は北コナで「コナ反響」を始めたダクタ・ハヤシ(林三郎医師)である。福島出身でアメリカの医科大学を出た。息子の林三成は早稲田を卒業し実業家に。その弟は林千里といい、医者であった。2 人目は中コナのケアラケクアの丸本玉次郎で、丸本商店とコナ劇場を経営していた。息子は、丸本正次判事である。3 人目はキャプテン・クックにいた森田丑馬は高知県出身でハワイコーヒーミルクカンパニーの支配人。前職は日本語教師であった。息子はホノルルシティバンク会長のジミー・森田・ミノルである。

ジャパニーズカルチャーセンター(ハワイ日本文化センター/ Japanese Cultural Center of Hawai'i)が近々完成する。ハワイ報知の 1 月 25 日の紙面で佐藤慶治基金募集委員長とアルバート・宮里のインタビューが報じられていた。宮里が「ギャラリーが文化センターの心臓です。それがないとただの集会所になってしまう」と言っており、感動した。5 月 20 日から 22 日まで開館記念行事があるが、みんながいろんな所から協力し合って後世に残るような文化センターになるといいと思う。基金の募集はあと 20 万ドルとなっている。

昔からのもので、後世に残したいものがある。ホレホレ節はよく知られているが、カチケン¹節もあり、教えられることが多くある。

「今朝は明き月よ 研鎌の光 負うてカチケンの 野に出でる」

「可愛い里子をよ 預かる心 撫でて育てた 2 年越し」

「汗を流してよ 作った報い 今日のかちけん おめでたや」

「心づくしてよ 作っただけに カチケンするにも 気がいさむ」

「無事にかちけんよ 済ましてうれし 苦労甲斐ある キビの出来」

「カチケン済ましてよ かしどきあげて ボーナスもらって 帰国する」

こういった移民たちの苦労や思いを、次の世代に伝えていくためにも、カルチャーセンターのギャラリーは大切な存在となるだろう。

【曲】

¹ Cutting cane のこと。サトウキビを切る作業。

「山の呼ぶ声、母の声」

【サブジェクトタグ】

ハワイ日本文化センター コミュニティ 有力者 プランテーションの暮らし かけ
んの歌

第 18 回目（1994 年 2 月 19 日放送）

【いろはがるた】

「楽あれば苦あり」: If there is pleasure, there may also be pain.

【話の内容】

面積と人口で大きな違いがあるハワイ島とオアフ島の違いを紹介する。現在ハワイ島はオアフ島の7倍の面積をもっているが、その人口はオアフ島の1/7である。どうして2島で人口がこんなに違うのか。カメハメハ大王がハワイ島コハラで生まれたころは、ハワイ島に権力と人口が集まっていた。それがなぜ、オアフ島と逆転したのか。1911年2月1日の「ハワイ殖民新聞¹」によると、当時ハワイ島には55,382人が住んでいた。一方のオアフは83,993人²。オアフ島とハワイ島はそんなに違わない。移民はハワイ島が多かった。ホノルルに住む二世でも、ハワイ島で生まれたと話す人は多い。ハワイ島からホノルルに移る理由として、いい教育や仕事を求めてといったもののほかに、ホノルルは港もある。これから飛行機でのビジネスが増えると、土地のせまいオアフ島よりもハワイ島が開発される可能性は高い。

ハワイ島には世界一がたくさんある。マウナケアもマウナロアも富士山より高い。亡くなったスパーク・マツナガ（ハワイ州選出上・下院議員）も、ダニエル・イノウエ（ハワイ州選出上院議員・上院仮議長）も注目していた、マンガンがハワイ島から南米の方に続く海の底にあることも注目すべき。また、水も世界一おいしく、天文台も世界一。たくさんの天文台が設置してあるが、その中でも日本のものが一番いい。このようにハワイ島は土地がまだ広くあり、多くの可能性があるが、ハワイ諸島全部の日系人団体が協力しあうことが一番大切なことであり、オアフ島だけというのは良くない。以前は全島に団体があったが、100周年の時の資金をオアフ島が全て取ってしまい、それ以来、各島の協力が無くなってしまった。

【曲】

「白蘭の歌」

【サブジェクトタグ】

移民のくらし ハワイ島 ハワイ殖民新聞

¹ Hoover Institute Library and Archives Japanese Diaspora Initiative の邦字新聞デジタル・コレクションで確認することができる。

<https://hojishinbun.hoover.org/?a=d&d=hss19110201-01&e=-----en-10--1--img----->

² 「ハワイ殖民新聞」1911年2月1日紙面上の数字と異なっている。

第 19 回目 (1994 年 2 月 26 日放送)

【いろはがるた】

「無理が通れば通り引込む」: If you pass incoherent things upon a person, the truth of the matter disappears.

【話の内容】

日本では 3 月に桜が咲くが、ハワイ島では 2 月に桜が咲く。種類は台湾桜である。ハワイの方が日本より一歩早い。ハワイ島は雨がよく降るので、花もよく咲く。ハワイは勉強するのもいい。純真学園の生徒もハワイ島に定期的に来ている。なぜハワイが日本の学生に人気なのか。晴耕雨読という言葉に表せられるように、コナは晴れが多く農地を耕せるが、ヒロは雨読、雨がよく降るので勉強にいい。

1900 年の新聞に「郎という字と刺客さしこさしこ」という記事を紹介する。岩倉具視を刺したのは大田一郎、森有礼を刺したのは西野文太郎、大久保利通を刺したのは島田一郎¹、星亨を刺したのは伊庭想太郎。「郎」という字がついた人が、歴代の日本の大政治家を殺してきた。

昨年、12 月 25 日朝にラジオを聴いていたら、親鸞聖人の話をしている番組(「光に向かって」、親鸞会がスポンサー)があった。それに関連して移民資料館に大切にしているレコードがあるのでぜひ紹介したい。1904 年、明治 37 年セントルイス世界万博博覧会において、白骨の御文章のレコードが最高賞を受賞した。この古い貴重なレコードがあるため、ラジオ放送で親鸞聖人の話をしていて女性にぜひ渡したい。

ホノルルに来るたびにコナ出身の人たちを思い出す。1928 年、林三郎医師、丸本玉次郎、森田丑馬らコナの三大関と呼ばれる人々がいた。当時、大久保は、コナで亡くなった齋藤実総理大臣の弟齋藤ショウゴという人物を調べるためにハワイ島へ渡り、ケアラケクア学園で教えながら生活していた。その間、ダクタ²林が作った「コナ反響」を手伝っていた。そのおかげで当時の「コナ反響」の記事を持っている。息子は林千里医師である。丸本玉次郎はキャプテンクックに商店と劇場を営業していた。息子は、判事の丸本正次。森田丑馬さんは日本人学校で先生をした後、コーヒーミルの支配人になった。息子はシティバンクの会長ジミー森田。親の奮闘は子供に影響するという例である。

昔のことを考えるためにヒロからレコードを持ってきて放送している。この中で、ハワイ島パパロア耕地で生まれた二世歌手古川千代美のレコードも持ってくるが、なぜ

¹ 大久保は岩倉具視が大田一郎に刺殺されたと話しているが、咽頭がんのために死去している。

² Doctor の意。

あんなに日本語がうまかったのか不思議に思う。1939年6月27日のハワイ毎日新聞のお礼広告で、公園劇場でののどじまんで一等を取り、賞品として日本への航空券をもらったことがわかる。アアラの公園劇場はもうないが、当時を思い出すにはいい歌手である。

【曲】

「椿咲く島」(歌: 古川千代美)

【サブジェクトタグ】

コミュニティ 有力者 コナ反響 ハワイ毎日新聞

第 20 回目（1994 年 3 月 5 日放送）

【いろはがるた】

「得意に帆を揚げ」: The ship with hoist it stays out before infallible wind glides on the surface of the sea.

【話の内容】

昔の話ではなく、最近の話をする。教育家の女性の知り合いといろいろ話をしていたら、よく「アイコさん」という人の話が持ち上がった。何度もその人の話をするので、「あなたの親友のそのアイコさんは、ミスですかミススですか」と尋ねたら、ダイエー社長の「愛甲さん」のことであり、男性であった。

一昨年、コバヤシホテルの小林達吉に会ったときも同じような話が合った。「ベレタニアのオフィスはだれがやっているのか？」と聞いたら「家内がやっている」と言われた。驚いた大久保は「奥さんですか」ともう一度聞くと、達吉の兄の「金衛(かなえ)」のことであった。

日本の国立国会図書館でも、2、3 年前から海外の資料を集めていると領事が教えてくれた。「資料収集のために日本から神(カミ)さんが来ています」と言われたが、それは間違いで「神(ジン)」という名字の人である。彼は時々、この放送局からも放送してくれる。神さんは、せっかく苦勞して調査をしていたのに泥棒に入られたのは本当に残念に思う。

昔、5,60 年前に大久保がプランテーションに行った際、福岡から来たおじさんと飲んだ。頭の上にザルがつりさげられていたので、大久保はそれが何であるのかおじさんに尋ねた。おじさんは、それは金庫であると答えた。その時代はそういう風にお金を置いておいても、なくなる時代だった。

移民当初、そうそうたくさんは持っていなかったが、人々はお金を壺に入れて床下に埋めたり、ザルに入れて天井から下げたりしていた。銀行がない当時、頼母子を使うことが多かったが、そうでない場合は、「郷里送金手続きします」という住友銀行の看板があるお店に行って日本に送金していた。こういったお店は 100 円につき 12 銭か 15 銭ほどの手数料をとって営業していたが、そのうち違法となりアメリカの証券取引所から郷里送金の看板をもっていかれてしまった。人々には銀行は手に届かないものだったので、お金が必要なときには頼母子をつくって子どもを学校へやった。「頼母子とって ワヒネ¹を呼んで 人にとられて ベソをかく」という歌があるが、そういう人は少なく、多くの方は頼母子を取って子どもを学校へやったのだ。壺やザルにいれておいても盗まれることなんてなかった。今では、「人を見れば疑え」なんていうが、当時

¹ Wahine. ハワイ語で女性・妻の意。

は社会みんなが協力し合っていた。

昔、移民たちは船で移動をしていたが、困るものは船酔いであった。へその上に梅干を置くと酔わなくて済むが、梅干の汁が下着について気持ち悪い。しかし、それは素人方法で、1899年の「コナ反響」の「船酔いの新医療療法」という記事ではドイツの新しい船酔い治療法が紹介されていた。船酔いには赤色のメガネをかけたら血がめぐるので効くということであった。

【曲】

「女学生日記」

【サブジェクトタグ】

プランテーションの暮らし 頼母子

第 21 回目（1994 年 3 月 12 日）

【いろはがるた】

「聞いて極楽見て地獄」: A paradise of hearsay, a hell at sight.

【話の内容】

大久保がハワイ島からオアフ島に飛行機で来る途中、マウナケアに雪が積もっていた。日本では冬に雪が降るが、ハワイでは冬だけではなく、6 月にもマウナケアに雪が積もる。日本から見たハワイにはスキー、ゴルフ等の「楽園」のイメージがあるが、そんな神秘的なところもある。

1939 年 10 月 20 日、日本の練習艦隊、八雲、警手が戦前最後となるヒロへの寄港を行った。当時 30 代で、新聞や日本語学校、日本語放送に関係していた大久保は当時の日系人社会の歓迎ぶりを覚えていると話す。ヒロには当時日本語のラジオ放送が 2 局あり、そのうちの 1 つに KHBC という放送局があった。英語の放送局で間借りをする状態で日本語のラジオ放送が行われていた。各県人会が各々示し合わせて艦隊の歓迎会を行った。ハワイ島にたった 20 人しかいなかったヒロ鹿児島県人会も、150 人の同県出身乗組員を招待し歓迎会を行った。KHBC 放送でも、乗組員に向けて歓迎放送として、ハワイ島の日系人による日本の歌を放送した。不運にも 2 年後、日本とアメリカは戦争することになってしまったが、このころは反米でもなんでもなかった。戦争が始まってからは、生みの親より育ての親を大切にするという日本の精神が強まった。それをやってのけたのが二世部隊である。彼らのおかげで、社会地位が認められた。それまでは投票権もなく、帰化もできなかった。日本人は蒙古民族なので帰化できなかった。女性はアメリカで生まれても、日本人の男性と結婚すると市民権がなくなり、学校へ通う権利もパウ¹になってしまったので、取り戻しの手続きが必要であった。

二世行進曲はこの複雑な気持ちを表す歌である。この歌は、古賀政男がカリフォルニア州ロサンゼルス¹の邦字新聞、羅府新報から依頼を受けて作成した歌である。この歌をぜひ日本人の人に聞いてもらって二世の精神をわかってほしいと思う。1939 年、日本の練習艦隊をハワイの二世の女性たちは愛国行進曲を歌って歓迎した。生みの親と育ての親、どちらにも感謝を尽くしたハワイ日系人のことを、より多くの日本人に理解してほしい。

【曲】

「愛国行進曲」

¹ Pau. ハワイ語で終わりの意味。

【サブジェクトタグ】

開戦まで 日本人・日系人団体 県人会 音楽

第 22 回 (1994 年 3 月 19 日放送分)

【いろはがるた】

「亭主の好きな赤烏帽子」: If the husband likes the red headdress for a court noble, even though it is eccentric, his wife can't refuse her husband's choice.

【話の内容】

ハワイの日本人の 4 人のリーダーと言え、相賀安太郎(日布時事社長)、牧野金三郎(ハワイ報知社長)、奥村多喜衛(マキキ教会)、今村恵猛(浄土真宗本願寺派の監督)がハワイ日系コミュニティの精神的なリーダーだったが、今日は相賀さんのことを話す。

ハワイ植民新聞の記事に載っており、「ヒロタイムス」にも転載したが、1910 年、横浜の港でまだ 5 歳であった相賀安太郎の息子重雄が「パパ万歳」と叫んだ。相賀はこの時に「別れては いつ会い見る 病む妻の 上に幸あれ 海三千里」と歌をよんだ。どうして相賀がこのような歌を作ったか。

彼のペンネームは相賀溪芳(そうがけいほう)であった。1896 年(明治 29 年)にハワイに渡った相賀は、戦争中に収容されたサンタフェでの苦しい生活などを記したことで知られる¹。

1909 年の「ハワイ植民新聞」にも書いているが、相賀、牧野、根来源之(ねごろもとゆき・弁護士)、田坂養吉(日布時事記者)がオアフ島のストライキで大苦闘していた時、ヒロの「ハワイ植民新聞」は各プランテーション等、彼らを応援するためにお金を集めて送った。1910 年 3 月 20 日の判決で、4 人はストライキのリーダーと見なされ投獄されてしまった。その時、病気中の相賀の妻は 5 歳の重雄とともに、日本へ帰ることが決まった。サイベリア丸で帰る妻を、相賀も見送りに行った。妻は日本に帰るとすぐ病死し、これが一生の別れとなってしまった。7 月 4 日、4 人のリーダーは 114 日の牢屋生活を終えて解放されたが、その際、あらゆる所から花束が届いた。相賀は 1910 年 8 月 23 日、ホノルル発のてんよう丸で 15 年ぶりに日本へ出発した。投獄中に亡くなった妻の墓参りと息子に会うための旅であった。9 月 2 日に横浜の港に着いたが、相賀氏によれば、多くの友人が歓迎してくれる中に、大阪から妻の母親が息子重雄を連れて迎えに来てくれ、重雄は相賀を見つけると、「パパ万歳」と叫び続けた。それを見た相賀氏は泣いたとのことである。

【曲】

¹ 相賀溪芳 (1948) 『鐵柵生活』 布哇タイムス、相賀安太郎 (1953) 『五十年間のハワイ回顧』 「五十年間のハワイ回顧」 刊行會、などが有名。

「青葉の笛」

【サブジェクトタグ】

日布時事 相賀安太郎 ストライキ

第 23 回 (1993 年 3 月 26 日放送)

【いろはがるた】

「頭隠して尻隠さず」: A careless person hides only his head, leaving his hips showing.

【話の内容】

1898 年、「コナ反響」の 3 面に「各国人の食べ方」という記事がでて、いろんな国々でのカウカウ¹の週刊が説明してあった。当時の新聞はまだ活字ではなく、ミメオグラフィ刷であった。イギリスの新聞を訳した記事であった。

1 番目はロシア人。ナイフやフォークを使うより、五本指を使う方が便利といって手でつかんで食べるので無作法だ。フランス人は、ナイフを使って食べる時でも、片手にパンをもって食べていた。ドイツ人は、ナイフを口の中に持っていくので危ない。スウェーデン人は、何を食べるにも細かく切り刻んで、ナイフを置いてフォークで食べる。イタリア人は魚を食べるときでもフォークを使うのと同じように、スプーンで食べる。日本人とシナ人は、二本の小さいスティックで、ナイフとフォークの代わりとする。箸を使うには、かなり訓練しないとイケない。ギリシャ人は、ハーフパウンドのステーキを食べるのに 30 秒しかかからない。そのため、消化器系の病気が多い。イギリス人は、世界中で最も進歩した食べ方をする。最も優美な食べ方をしたいと思うなら、教養あるイギリス人の食べ方を見て学べ。アメリカ人の先祖はイギリス人であり、イギリス人に習っているので変わりはない。というような内容であった。

ローカルでは Mo makule, mo pupule²というが、うらさんには Mo makule, mo akamai³になってほしいと思っている。

結婚と離婚のアメリカ。アメリカでは結婚したカップルのほぼ半数が離婚している。離婚した 35~39 歳の女性のうち 63 パーセントが再婚している。

【曲】

「浜辺の歌」(歌: 藤山一郎)

¹ ピジン語で食事の意味。

² ハワイピジンのことわざで、「年を重ねるほど馬鹿になる」という意味の文章。

Mo. 英語由来のピジン語で more を表す。

Makule. ハワイ語で年老いるという意味。

Pupule. ハワイ語で狂った・頭のおかしいという意味。

³ Akamai. ハワイ語で頭のいい・天才の意。「年を重ねるほど賢くなる」という意味の文章。

【サブジェクトタグ】

ピジン語 コナ反響 食生活 結婚

人間文化研究機構共創先導プロジェクト共創促進研究

日本関連在外書料調査研究

「ハワイにおける日系社会資料に関する資料調査と社会調査の融合的研究」

移民資料館アワー（国立国会図書館憲政資料室所蔵）

資料集

2024（令和6）年3月29日 発行

編者：朝日祥之

著者：宮崎早季

発行：大学共同利用機関法人 人間文化研究機構 国立国語研究所

〒190-8561 東京都立川市緑町 10-2

電話：042(540)4300 (代表)